

令和3年  
1月29日

# 病害虫発生予報 2月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

農薬危害防止と効果安定のために  
土壌くん蒸剤の施用後は、しっかり被覆しましょう。

## < 目次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

イチゴ：アブラムシ類、ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病	2
促成トマト：灰色かび病	2

#### 【その他の病害虫】

イチゴ、促成ピーマン、促成トマト、促成キュウリ	3
-------------------------	---

### II. 今月の気象予報 . . . . . 4

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>

<HP QRコード>



# I. 今月の予報

## 【注意すべき病害虫】

### イチゴ

#### 1. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、寄生葉率（本年値 7.8%、平年値 1.1%）、発生地点率（本年値 30%、平年値 10%）ともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アブラムシ類は増殖が速いため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を使用する。

#### 2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、寄生葉率（本年値 12.7%、平年値 16.5%）、発生地点率（本年値 70%、平年値 64%）ともに平年並である。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を使用する。

## 促成ピーマン

### 1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病度\*（本年値 13.8、平年値 4.9）、発生地点率（本年値 100%、平年値 47%）ともに平年より高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を使用する。

## 促成トマト

### 1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病株率（本年値 7.0%、平年値 1.2%）、発生地点率（本年値 25%、平年値 11%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 罹病部や幼果に残った花弁はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

（令和2年12月24日発表 病害虫速報 No.6 参照）

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：やや少ない	1月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
	アザミウマ類	—	一部圃場で発生を認めている。気温の上昇に伴って増殖が速くなるので注意する。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：やや少ない	1月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：やや少ない	1月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。気温の上昇に伴って増殖が速くなるので注意する。
トマト 促成	タバココナジラミ	発生量：やや多い	1月下旬現在、平年よりやや多い発生である。気温の上昇に伴って増殖が速くなるので注意する。
促成キュウリ	褐斑病	発生量：やや多い	1月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	灰色かび病	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
	べと病	発生量：平年並	1月下旬現在、平年並の発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	1月下旬現在、平年並～やや多い発生である。気温の上昇に伴って増殖が速くなるので注意する。

## Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 1月30日から2月28日)

気象庁(1月28日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	30	60
	降水量	関東甲信全域	40	30	30
	日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。  
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 1月30日(土曜日)から2月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率60%

<2週目の予報> 2月6日(土曜日)から2月12日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率60%

<3週目から4週目の予報> 2月13日(土曜日)から2月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類<sup>\*</sup>(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(令和2年4月24日発表)の防除所  
レポート参照